

2021年1月30日(土)対話型オンライン保育合同研究会 保育施設基本情報

園・施設名	緑ヶ丘第二幼稚園
経営主体	学校法人 啓朋学園
所在地	〒981-0904 宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘4-8-17
定員	160名
理事長名	三塚 薫
園長名	三塚 薫
採用担当者	三塚 薫
電話番号	022-234-3030
保育理念 保育方針 保育目標	<p><子ども達と教師が一緒に創る保育> クラスのお子さんの育ちに応じて保育を展開していきます。決ったタイムスケジュールではなく、その日のそのクラスのお子さん方の状況に応じて時間配分が変わります。担任はその日の保育の案を考えていますが、案は絶対的なものではなく、保育はクラスのお子さん方とつくっていくものと考えています。ですから、天気の良い日は天気の良い日ならではの遊びを。雨の日は雨の日ならではの遊びを。寒い日は寒い日ならではの遊びを。暑い日は暑い日ならではの遊びを。と状況に応じた遊びの展開を大切にしています。</p> <p><考え工夫する環境> 幼児期だからこそ「考えて工夫する環境」が大事であると考えています。子どもたち自らが考えを出し合い、話し合い、工夫し合う体験や、予想したり、調べたり、試したりする体験は、子どもたちに「生きる力」として身に付いていくものと思います。ですから教師は安易に答えを教えたり、簡単な方法を教えるのではなく、子どもたちと一緒に同じ目線で子どもたちの取り組みをサポートしていくことが大切だと考えています。先生が子どもたちの活動の全てを準備し、先生が考えた案で、先生が作ったパーツで作ったり、活動するのではなく、自分で考え、試行錯誤しながら活動を展開していくことによって、考え工夫する力を育てたいと考えています。</p> <p><直接的体験> 幼児期に大切な環境として、直接的体験もお子さんの心と体づくりには欠かせないことであると考えています。その一つとして「わくわくガーデン」での畑作りをしています。お子さんの年齢に応じて土づくりを体験したり、種まきや苗植え、受粉、草取り、収穫、収穫したものを使って料理・等お子さんと教師と一緒に活動します。土の温もりを感じながらお子さん方が、大切に育てた野菜の味は、もぎたての自然の甘さもお子さん方に教えてくれます。お子さん方が口にするものですから、無農薬はもちろんのこと、蛭殻肥料を使った有機栽培です。</p> <p><地域とのかかわりを大切にする環境> 地域社会の教育力の低下が指摘されている現代、お子さん方にも地域社会の中で守られ育てられている体験が必要ではないか考え、地域のイベントに参加しています。5月の青葉祭り、6月の旭ヶ丘のホテル祭り、旭ヶ丘市民センター祭り等に参加させて頂いています。多くの表現の場を与えて頂くことによってお子さん方は、表現する喜びを感じながら自信を持つようになります。</p> <p><共育し合う環境> お子さん方は、日々の保育の中でお子さん同士刺激を受けあいながら成長していきます。共に育つ仲間としてお子さん方は育ち、お母さん方も子育てをし合う仲間として理解し合い、協力し合うことが、核家族化が進む今日大切ではないかと思えます。お母さんの仲間づくりがお子さんの仲間づくりへも大きな力を発揮します。</p> <p>保育目標：本園は、学校教育法・幼稚園教育要領に従って、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児に適した環境のもとで心身の健やかな発達を目的として幼児の保育にあたります。園生活の中で自分を取り巻く全ての人や物、生き物や自然に感謝する心を育みながら、信頼関係を築く経験を深めます。</p>
保育環境	住宅地の中にあり、幼稚園園舎とみどりっこハウスの棟に分かれ、園舎では3、4、5歳児クラス。みどりっこハウスでは満3歳児と2歳児クラス。2階は子育て支援として未就園児と保護者の方に解放しています。園庭には固定遊具だけでなく、移動遊具を取り入れ、幼児自らが遊びの空間を作り出せるような環境を大切にしています。
ホームページ URL	http://midoriko.ac.jp

<p>事前質問</p> <p>※以前ご回答いただいた内容を記入させていただきます。</p>	<p>※《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。</p>
	<p>(黒字は園長の考えです。赤字は教員で話し合った意見です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の質は、「幼児の育ちの場として心身共に充実し、より豊かに生きていくために成長を支える環境や経験」ということと捉えています。 ・質の内容は、環境(物的・人的)、教育理念とその実践、運営(園、学級)、園の体制の構造(保護者との信頼感・職場環境)、幼児の育ちの成果、経営など多くの側面があり、総合的に向上していくことが必要だと思います。 ・保育の質とは、幼児が心も身体も満たされ、自発的に様々なことに挑戦し、成長していけるような環境や経験の全てだと考えます。 ・質の高い保育を行うために、日々の保育の振り返りをしっかり行い、明日からの自分の保育に反省を生かすこと、保育の正解を決めつけずに試行錯誤し続けること、幼児と丁寧に関わることを大切にしたいと考えています。 ・幼児の育ちや興味を示していることに目を向けて人的・物的環境を構成しながらその姿を認めていき、さらにその場面から読み取れた姿から環境を再構成していくことだと思います。
	<p>"「保育の質」の向上”のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。</p>
	<p>(黒字は園長の考えです。赤字は教員で話し合った意見です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修として毎年研究テーマに基づいてポスターをつくり、保護者の方にも保育内容を理解して頂けるよう掲示したり、宮城県私立幼稚園連合会主催の研修会への参加、宮城県の教育センター主催の研修会への積極的な参加を心がけています。また全日本私立幼稚園研究機構主催の実践学会にも機会を捉えて参加し、ポスター発表をしています。 ・園内研修では、担任全員でテーマについて話し合い、それぞれができることを分担してポスターを作っています。クラスや学年、年次等関係なく意見を出し合い、全員で一緒に考えることで、お互いの学びを深めています。 ・職員間で話がしやすい雰囲気作りを心がけています。園内研修のときだけ話す、ということではなく、日頃から、保育の中で面白かったこと、感動したこと、困ったこと等をよく話しています。どんなことでも”聞いてもらえる”話してもいいんだ”と思える雰囲気があることで、情報共有ができるだけではなく、自分では気づけなかったことに気づけたり、新たな学びに繋がる機会になっていると感じます。
	<p>学生の就活において「職員同士の“人間関係”」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。</p>
	<p>(黒字は園長の考えです。赤字は教員で話し合った意見です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係はそこに集った一人一人で構成されているので、自分がそのメンバーに入りたいと思うかどうか。また、そこで自分の力を発揮するのかどうかということであると思います。どこでも自分と気が合うメンバーとだけ集えるとは限らないので、衝突しても相互理解し合える環境が幼児にとって大切な人的環境になると思われれます。 ・職員同士の人間関係は大切だと思います。職員同士が話しやすい環境であるからこそ、目の前の子どもたち、日々の保育に集中することができているのだと考えます。また、人間関係が良好であるからこそ、遠慮せず保育の相談が出来たり、困ったときに頼ることができ、そのことが結果として質の高い保育に繋がるのではないかと考えます。 ・良い人間関係というのは、友だちのように全員が仲の良いことではなく、尊敬する部分がある、互いに高め合うことが出来る関係のことだと思います。
	<p>乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。</p>
<p>(黒字は園長の考えです。赤字は教員で話し合った意見です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の話をよく聴きどんな思いや考えがあるのか読み取ること、幼児同士で話し合いの場を持つこと、話し合って共有し実現したり表現していくこと、とにかく一緒に幼児と遊び込むことが大切だと思います。 ・教師と一緒にいることで、安心して新しいことや難しいことにも挑戦しようと思える存在であること。また、いつでも頼っていい、甘えていいと思える存在であること。幼児と同じ立場に立ち、一緒に遊ぶ中で、幼児の好きなことや考えていること、発達段階を知る。幼児の言葉や表情等のサイン、小さな成長を見逃さず、一人ひとりの気持ちを受け止めたり、共感したりすることで信頼関係を築いていくこと。 	
<p>生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。</p>	
<p>(黒字は園長の考えです。赤字は教員で話し合った意見です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自らやってみたいと思えるような言葉かけや環境がまず大切だと思います。どうしてそのことをするのか理由を幼児と考えを出し合い、必要性を理解しながら取り組むことが自立に繋がっていくと思います。身の回りの生活習慣を身につけることは大切ですが、幼児が「出来ない・・・」と言っているときの心情はどんなのかということが大切だと思います。 ・ただ「〇〇してね」と言うだけではなく、「〇〇だから、△△してね」「どうすればいいかな?」「どうしてやらなきゃいけないと思う?」と問いかけながら一緒に取り組んだり、見守ったりしています。個人差があるので、援助のしすぎには気をつけています。自分で出来ることや挑戦できそうなことは、その機会を奪わないよう、見守るようにしています。少しでも成長が見られたときにはたくさん褒め、一緒に喜び、自分に自信が持てるよう働きかけています。 	
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>コロナ禍でなかなか思うように行動できない時代ですが、ポジティブに捉えて、「今できること、今だからできること」をお互いに模索していきましょう。コロナ禍は、私たちの課題を乗り越える力、創意工夫する力ーまさに非認知能力が試されていると思います。まだ終わりは見えていませので、一緒に模索していきたいと思います。</p>